

ほのぼの 横浜療育医療センター通信

ハイライト:

- 1面 十愛療育会後援会発足
- 2面 震災地域復興支援活動報告
- 3面 障がい者雇用をはじめて

目次:

震災ボランティア報告	2
出前介護講習会	2
棟行事の報告	3
障がい者雇用事業	3
ボランティア募集	4
お知らせコーナー	4
後援会のご案内	4

十愛療育会後援会発足、会長には浅野史郎氏

横浜療育医療センターを経営する法人「十愛療育会」の後援会が発足することとなりました。

十愛療育会は民間の社会福祉法人として、横浜療育医療センター(開設時は横浜療育園)を23年前に開所し、長く一法人一施設で経営してきましたが、5年前に青葉区に「地域療育センターあおば」、昨年は重度身体障害者施設「たちほ도가や」を開所し、3つの施設を運営しています。また、横浜療育医療センターに隣接して「ヘルパーステーションまいはーと」「横浜保育室 ひかり」「病児保育室 あさひ」の事業所も運営しております。

後援会は法人への経済的援助が第一となりますが、広報活動も重要な役割となります。法人の活動を支援する後援会があることは、利用される方、その家族、職員にとって何よりの励みになります。

会長には、元宮城県知事で、現在慶応義塾大学教授の浅野史郎氏にお願いすることができました。浅野氏はかつて厚生省の障害福祉課長時代に、全国で初めての重症心身障害児者通所施設「朋」を認め、後に



重症心身障害児通園モデル事業を生み出し、通園事業を制度化してくださった方です。氏は折に触れ自分の福祉の原点は「重症心身障害児者」だと話されてもいます。氏は、2年前成人T細胞白血病と診断され闘病されましたが、現在は社会復帰され、慶応義塾大学で教鞭をとられています。著名な方ですので、お願いするにあたり躊躇がありました。早くお応えくださいました。

法人と後援会と、これからは、重い障害の人たちのため、みんなで「生まれてよかった」といえる社会を目指して、腕を組んで歩いていけたら願っています。

(十愛療育会理事長 日浦美智江)



横浜みなとみらい地区 横浜美術館前に咲くひまわり
Photo by Satomi**

「みんな主役だ！ほのぼの祭！」10月2日開催

「球舞ーCUBE-」も来る!!

地域交流をテーマにした、横浜療育医療センター恒例の「ほのぼの祭」が、10月2日(日)10:00~14:30の日程で開催されます。恒例の模擬店、スタンプラリーや大道芸の他に、市立橘中学校吹奏楽部の演奏や、さらに、

世界的なパフォーマー「球舞」のスペシャルイベントが13:00から予定されています。秋のひと時を、地域の皆さんと、ほのぼの過ごすことができることを、願っております。ご来場を心よりお待ちしております。なお、駐車場はございませんので、お車での来場はご遠慮ください。

東日本大震災復興支援ボランティア報告

● ひたかみ園(石巻市)

地震発生から1ヶ月目の4月11日朝の5時。4名の復興支援ボランティアは、米120Kgなど車いっぱいの支援物資を積み、センターを出発し宮城県石巻市にある「ひたかみ園」に向かいました。

東北自動車道は、福島県内に入ると道路はゆがみ速度規制がかかっていますが、仙台市中心部には倒壊した建物はみあたりませんでした。しかし、石巻市の津波被災現場に入ると、景色は一変し、大津波で倒壊・破壊されて変わり果てた街を目のあたりにしました。

ボランティアに入った「ひたかみ園」は、在宅の障害児者とその家族が避難する「福祉避難所」となっていました。一般避難所で生活できずにいた彼らに、「ひたかみ園」を所有する法人が、使わなくなった施設を避難所として提供していました。さらにその法人の職員を、ボランティアとして提供し、避難所を運営していました。職員自身も被災者で、さらに連続勤務で疲弊していた状況に対し、民間施設同士のネットワークを通じてボランティア募集の緊急支援要請が全国へ流されていました。私たち4名も全国各地からのボランティアと共に、次のグループと交代するまでの5日間の緊急要請で参加しました。

2名の看護師は、その専門性を生かして、被災者の直接的な健康管理を、他の2名は、集団感染防止のための衛生活動と障がい児

者の生活介助、各所の掃除・布団干しなどの環境整備、物資の整理、物干し、また下駄箱の設営なども行ってきました。

(リハ課 花井)

● 仙台つどいの家(仙台市)

地震が起きた時、大きな揺れの中でも、あの手この手で利用者さんを護り、建物の外へ避難させ、人的被害を出さなかった職員の皆さんの迅速な判断と行動を聞き、感銘を受けました。

6月27日から7月1日まで被災地支援のボランティアとして訪問した「仙台つどいの家」では、建物の天井が落ち、活動ができなくなっていました。そのため、他の施設を借りての活動を余儀なくされ、重心の通所利用者さんを30分離れた場所まで送迎し、活動を行っています。環境が変わり、昨年度までいたPTも退職していたため、利用者さんの身体の変化を心配されて、支援依頼がありました。一日の活動全てに参加し、PTとしても職員さんたちが大切にされている利用者さんの身体の評価をさせていただき、身体の動かし方や姿勢の工夫について、お伝えしてきました。

また、沿岸部の壊滅的な被害状況も視察し、言いようのない恐怖と無力感を抱きました。復興は長期に渡ると感じました。皆さんの頑張りを風化させることなく、長期的な支援のネットワークが広がることが大切と感じました。

(リハ課 入岡)



出発前の記念撮影 横浜療育医療センターから2名、地域療育センターあおばから1名、訪問の家から1名の計4名で出発した



「仙台つどいの家」の外観(上)と天井の落下した建物内(下)

出前しました！ 『出前介護講習会』

5月20日、「新横浜地域活動センター」の職員30人以上の参加で、当センター独自に行っている出前介護講習会を実施しました。今回は主に移送介助やポジショニングで実技をメインでした。以下は、講習会受講者の声です。

☆自分では気付かなかった、または気付きにくい所で力任せになっていたり強引な介助を行っていたと思う。介助される側はもとより、介助する側の身体を守る意味でも適切な介助方法を身につけたいと思う。

☆介護技術ばかりではなく体験的なもの

が多く楽しかった。やり方を教わるよりも「こうされたらどう？」というレクチャー方法は記憶に残りやすく、他の人に伝える方法としても良いと思った。

『出前介護講習会』とは、地域で重症心身障害児(者)の日常生活を支える機関に向けて、リハビリテーション課スタッフが施設に出向く講習会です。具体的な内容は依頼先の希望を取り入れ調整しています。

＜お申し込み・お問い合わせ先＞

(地域サービス課 担当：大矢)



リハ課のPT(右側)が、熱心な受講者たちに、実際に見てもらいながら伝えました。



木管五重奏コンサート

6月18日(土)木管五重奏の『Ensemble Chocolegni (アンサンブル ショコレニ)』さんがいらっしゃいました。多目的ホールにて“サウンドオブミュージック”やとなりのトトロで有名な“さんぽ”、日本の歌メドレーなど数曲を演奏して下さいました。

利用者の方々は声を出したり、笑ったり、リズムを取ったりと、それぞれの楽しみ方で聴いていました。A、B、C棟合わせて100名を超える利用者、家族の方々が演奏に聴き入っていました。



ホール満員！のコンサートの様子



ヴァイオリンとピアノのコンサート

7月24日(日)に小池彩織さん(ヴァイオリン)と石川悠子さん(ピアノ)によるヴァイオリン・ピアノデュオコンサートが当センターのホールにて行われました。『愛の挨拶』『ディズニー音楽』『メロディ』

などを演奏され、利用者の方々はホールに響き渡る音楽を体いっぱい感じていました。また音楽と共に素敵なドレス姿に注目だったようです。



演奏中の素敵な小池さん(左)と石川さん(右)



A・B棟合同夏祭り

8月6日(土)A・B棟合同の夏祭りが多目的ホールにて開催されました。皆さん浴衣やアロハに着替えて参加されています。仮装大会は紅白に分かれて花道を歩き、仮装された利用者さんはノリノリ、ご家族も我が子の変身振りを楽しまれました。男性は被り物が多かったような・・・。

仮装の次は盆踊り！踊りのボランティアさんを囲んで、炭坑節やきよしのズンドコ節を踊って一汗かきました。屋内での開催となりましたが、花火の映像が夏らしさを演出して皆さん夏真っ盛りの雰囲気を楽しまれました。



夏らしく盆踊りを楽しみました！

障がい者雇用事業をはじめて

「おはようございます!!」と朝8時40分頃、びっくりするほど元気な声が事務所に響きます。事務所の皆がこれまたちょっとあわてて、「おはようございます!!」と応える光景が今年の5月から毎日続いています。

この元気で、さわやかな声の主は大澤駿也さん。今、障がい者雇用事業で働いている青年です。大澤さんの仕事は、2階の職員食堂や、トイレ、ロビー、廊下の清掃です。大澤さんは、掃除が大好きです。特にトイレ掃除が得意で、それは丁寧に、便器を抱えるように隅から隅まで磨いてくれます。

最初に大澤さんと面談をした時、働いたお金でガイドヘルパーさんと一緒に東京ディズニーランド(TDL)に行くことが大澤さんの夢だと、就労支援センターの方から教えられました。総務部長の中村さんが「大澤さん、ここで頑張って働いたらTDLは何回も行けるよ!」と話した時には、緊張した顔がぼっと紅潮して、「にこっ」と笑いました。また、面談中にもTDLが頭をよぎるのか時々「にたっ」と笑うのです。「大澤さん、

TDLのことは少し忘れて!」と言われて、照れた顔をした大澤さんを見て、温かい笑いがひろがりました。

「おはようございます」「休憩にはいきます」「ありがとうございます」「お先に失礼します」で終わる大澤さんの毎日が、事務所の空気を和らげ、さわやかな風を運びます。こちらこそ「ありがとう!センターにきてくれてありがとう」、あの面談の時に涙が出そうになった感動が続いています。

現在、障がい者雇用事業で働いている方は十愛療育会全体で5名になります。身体に障害のある方は、痛みと闘いながら働いています。他の方々も、それぞれ自分の障害と闘いながら働いています。本人の努力と就労支援センターの指導、皆さんの温かい支援の気持ちで、難しいと言われている「雇用の定着」に繋がっていくのだと思います。十愛療育会では、これからも障がい者雇用を拡大して「働きたい、働ける障がい者」を支援していきたいと考えています。今後ともご協力をお願いします。

(法人本部事務局 菊地)



後列の左からセンターで働かれている岸 大輔さん、大澤 駿也さんとサポートする法人本部と総務課の職員

看護師さん募集!!

あなたの経験を、あなたの優しさを、あなたの情熱を、
必要としている方たちがいます。
くわしくは、ホームページにアクセスを。



あなたの笑顔を待っています！ ボランティアさん募集中！

楽器演奏など特技の披露や、散歩や読書などの活動への参加、簡単な日常生活のお手伝いをしていただけるボランティアさんを募集しています。短い時間でも大丈夫です。散歩や買い物が好きな人、本を読んでもらう事が好きな人等など・・・個性豊かな多くの仲間が皆さんとの出会いを心待ちにしています。

申し込み、お問い合わせは、 担当 飯田
TEL 045-352-6551 月～金 9:00～17:00



Photo by Satomi**



お知らせコーナー



●十愛療育会後援会のご案内●

後援会は、社会福祉法人十愛療育会の理念に基づく諸活動に寄与することを目的としております。

★法人各施設が行う行事活動への協力

▼法人運営費への一部支援

◆会報の発行(年1回以上)

等を行います。

個人会員 1口 二千元/年

団体会員 1口 五千元/年

連絡先は、

法人本部(横浜療育医療センター内)

担当 山根

●ご存知ですか? まいはーと●

「まいはーと」は、横浜療育医療センターのヘルパーステーションです。

☆通所・通学前のお支度、通院介助でお困りの方。☆散歩や外出のサポートを必要な方。

☆入浴前の準備や入浴の介助の大変な方。どうぞ、お気軽にご相談下さい。

TEL 045-352-6626 前田・坂間

●公開シンポジウム●

「小児脳性麻痺における痙縮治療の進歩」

日時：2011年10月29日(土) 14時～16時

会場：県民共済みらいホール

(横浜市 JR 桜木町駅から徒歩3分)

入場無料(定員 300名)

問い合わせ先 横浜療育医療センター 山根

045-352-6551

●J and H って何? ●

昨年まで社会福祉法人訪問の家では家族会が「訪問の家花シリーズ」として日浦美智江の絵画を基にした作品(カレンダー、一筆箋、はがき・・・など)を販売していましたが、昨年4月より、日浦が社会福祉法人十愛療育会の理事長に専任となり、訪問の家を離れたことを機に、「花シリーズ」を、十愛療育会(J)と訪問の家(H)を合体させた「J and H 花シリーズ」として販売されることといたしました。収益は、十愛療育会と訪問の家に寄付いたします。作品はそのままでもおり変わりません。どうか今後とも日浦の絵による花シリーズをご利用いただきますようお願いいたします。(十愛療育会理事長 日浦美智江)

●花のカレンダー 販売のご案内●

日浦美智江作の「J and H 花シリーズ 2012年花カレンダー」を10月より、一部1000円で販売いたします。お問い合わせ 法人本部



印刷前の
カレンダー
の図案
(左)



ロゴの意味：オキザリスの花(花言葉は、輝く心、母の優しさ、和)がモチーフです。黄色い花は障害のあるご本人を、ピンクの花は母の優しさを、左右の三つ葉は、医療と福祉を、オレンジの輪は、それを包む温かい社会を意味しています。

社会福祉法人 十愛療育会

「障害医療・福祉の中核となるよう専門性を高め、その持てる機能を広く地域に提供し、障害児者とその家族がより安心して快適な生活を送れるよう支援します」

ホームページもご覧下さい
<http://www.jyuuiryoukukai.or.jp/>

編集後記

この第4号から、紙面をリニューアルしました！センターから、皆様へできるだけ多くの情報提供を目指していきます。今までの通信同様に、「少し愛して、長く愛して！」・・・だいが古いCMでしたね。職員の熱い投稿もお待ちしてます。(K)

横浜療育医療センター

241-0014 神奈川県横浜市旭区市沢町 557-2
TEL 045-352-6551 FAX 045-352-9241

発行責任者：根津 敦夫(センター長)

編集：広報委員会

発行日：2011年9月15日